

キャラクター名  

タマ
----

プレイヤー名  

--

<b>メインクラス</b>	メイジ	<b>Lv.1:</b>		<b>レベル</b>	3	
<b>サポートクラス</b>	ファランクス	<b>Lv.1:</b>	ファランクス	<b>性別</b>	男	
<b>称号クラス</b>					<b>年齢</b>	
<b>種族</b>	エクスマキナ				<b>境遇</b>	渡来
<b>出自 (効果)</b>	魔術師				<b>目標</b>	命令

	筋力	器用	敏捷	知力	感知	精神	幸運
<b>基本値</b>	14	9	6	11	9	15	7
<b>ボーナス</b>	4	3	2	3	3	5	2
<b>クラス修正</b>	1	1	0	2	1	1	0
<b>他修正</b>							
<b>能力値</b>	5	4	2	5	4	6	2

<b>HP</b>	45
<b>MP</b>	52
<b>フェイト</b>	5

装備品		射程	命中	攻撃	回避	物防	魔防	行動	移動
右手	ハイクオリティシールド					5			-1
左手	ハイクオリティシールド					5			-1
頭部	スーツアーマー				-2	10			-3
胴部									
補助	ポイントアーマー				-1	3			
装身具									
<b>能力値</b>			4	0	2	0	6	6	10
スキル	アイアンフット								9
その他									
<b>総計(右)</b>			4	0					
<b>総計(左)</b>			4	0	-1	23	6	6	14
<b>総計(両)</b>			4	0					m
<b>ダイス数</b>			2 d	2 d	2 d				

	能力値	スキル	その他	合計	ダイス数
トラップ探知	4			4	+ 2 d
トラップ解除	4			4	+ 2 d
危険感知	4			4	+ 2 d
エネミー識別	5			5	+ 2 d
アイテム鑑定	5			5	+ 2 d
魔術判定	5			5	+ 3 d
呪歌判定					+ d
錬金術判定					+ d

所持品	
MPポーション *5	
HPポーション	

現在重量： 6

最大重量： 15 所持金： 170 預金・借金：

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
チューニング	★	-	パッシヴ	-	自身	-		
効果： 能力基本値をふたつ選択し、キャラクター作成時に、選択した能力基本値の片方に+4し、もう片方に-1								
アースプレイヤー	3	-	パッシヴ	-	自身	自動		
効果： <地>魔法ダメ+[4SL]								
アースバレット	★	6	メジャー	20m	単体	魔術		
効果： <地>[2d+5] 0<ダメ [スリップ]								
フライト	1	4	メジャー	至近	単体	魔術		
効果： 飛行 【移動力】+[5SL]m								
コンセントレイト	★	-	パッシヴ	-	自身	-		
効果： 魔術判定+1d								
アイアンフット	3	-	パッシヴ	-	自身	-		(属性/生体/重量)
効果： 【移動力】+[3SL]m 済								
マジックブラスト	★	4	マイナー	-	自身	-		
効果： MP中、魔術を「対象：範囲（選択）」に変更								
ファランクススタイル	★	-	パッシヴ	-	自身	-		精神
効果： 精神基本値で重量制限を計算する。防具の装備制限を無視できる。								
マジックノウリッジ	★	-	パッシヴ	-	自身	-		
効果： 魔術に関する知力判定+1d								
マジカルハーブ	1	-	アイテム	-	自身	-		
効果： MPpot*3								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

ベルクシールには幽霊が住み着いている。グラスウェルズ首都ベルクシールの片隅、一日中日光の射さない薄暗がりには小さな墓がある。その墓地には無名の墓石が林立し、しかし墓参りした人間の痕跡は一切なく墓石も苔むして原型が分からないものまである。人々から忘れ去られた墓地に目をつけたのが魔女メディアだった。彼女は魔術を用いて一夜にして地下に納骨堂を作り、更にその奥に実験室を拵え夜な夜な怪しい実験を繰り返していた。

ある日メディアが材料の収集から戻ると墓場に打ち捨てられたエクスマキナがあった。腕は肩からはずれ欠損し、銅は大きくひしゃげ装甲もかろうじてひっかかっているといった有様。そんなエクスマキナを哀れに思ったのか、メディアは半壊していたそれを実験室に運び込み修復を試みた。1週間後、メディアの前には生まれ変わったボンコツが聳え立っていた。両手とも何故か右手のパーツがついている。首はすわってない。歩くたびに身体が左右にふらつく。そして自分がなにもか覚えていない。

それでも自分の作品に愛着が湧いたのか、修理代を取り返すためか。エクスマキナにかつての愛猫から「タマ」という名前を与え、魔女の助手とすべくさまたまな教育を施した。素養もあったのか過去に類する仕事に携わっていたのか、わずかな期間で魔術の実践を行えるまでに成長した。その成長振りを見て案ができると喜んだメディアは理論の探求に集中するようになり、タマは実践を一人で任せられるようになった。

しかしこの頃から秘密の地下墓地にはガラの悪い男たちが出入りし始めていた。グラスウェルズの裏社会に深く根を張る王蛇会の人間だ。メディアがこの都市に着てから仕事を手配してもらったり金を工面してもらったりと面倒を見てもらっていたが、助手タマの育成のため仕事が滞りがちになり催促にきていた。が、元来人に命令されるのが嫌いなメディアはこの機に夜逃げを決行。持てるだけの荷物をタマに持たせて転送石でヘクスフォード港へ飛び、そこからエリンデ